第 45 回歴史探訪の会
「大津坂本で明智光秀ゆかりの史跡を巡る」

開催日：平成 27 年 7 月 15 日（水）
場所：滋賀県大津市坂本
案内人　　澤田　謙治

接近中だった台風 11 号の影響が心配されたが台風の足が遅く晴天に恵まれました。最高気温 33 度を超える暑い一日でしたがオープン例会としての参加の方 5 名を含めて合計 20 名の方に参加頂きました。

坂本は比叡山・延暦寺、日吉大社の門前町として栄え、琵琶湖に面した下坂本港が開けた事から都との交通の中継地ともなっていて商業地としても大いに栄えました。織田信長による比叡山焼き討ちの後、信長の命により比叡山への抑えとして明智光秀が坂本城を築きこの地を治めたが、山崎の合戦の後に坂本城は焼失しました。イエズス会の宣教師ルイス・フロイスによれば坂本城は安土城に次ぐ豪壮華麗な城だったとの事。今回は坂本城址や明智光秀ゆかりの史跡を中心に「古都おおつ観光ボランティアガイドの会」の方の案内で坂本の町を歩きました。

【コース】
JR 比叡山坂本駅⇒生源寺⇒穴太積石垣⇒滋賀院⇒慈眼堂⇒坂本城址公園（昼食）⇒明智塚⇒
酒井神社/両社神社⇒JR 比叡山坂本駅

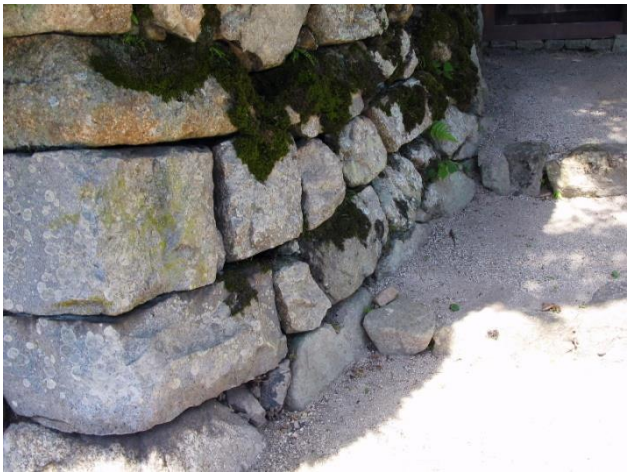
【生源寺】
日吉大社大鳥居のすぐ前にある比較的小ぢんまりとした寺院で、奈良時代後期、最澄(767-822)によって開山されたと伝えられます。また、最澄の生誕地といわれ、最澄の産湯に使われたと云う井戸があります。延暦寺の中でも特別な霊地として崇められています。
この寺には 1571 年の織田信長による比叡山焼討ちの際に異変を知らせる為に力の限り乱打をした為にヒビがはいり不思議な音色になったと伝えられる釣鐘がありましたが、現在はJR比叡山坂本駅前にある「坂本石積みの郷公園」に移されています。

JR 比叡山坂本駅前の「坂本　石積みの郷公園」
写真右手に見える屋根の下に「生源寺の破鐘」がある

最澄の産湯に使われたと言われる井戸

【穴太積石垣】

比叡山山麓の穴太の里（京阪電車・石山坂本線で坂本駅から 2 つ目に「穴太」と云う駅があります）に居住した石工職人集団、穴太衆は寺院の石垣を任されていたが、織田信長や豊臣秀吉によって城の石垣を構築する様になり多くの城の石垣が穴太衆によって作られました。加工しない自然の石を巧みに組み合わせて石垣を構築するのが特徴で安土城や彦根城、竹田城等多くの城の石垣が穴太衆により築かれたとされています。坂本にある多くの寺院に穴太積の石垣を見る事が出来ますが、滋賀院の石垣が穴太積の特徴をよく現わしている。又、現在も穴太積の技術を継承する「粟田建設」が坂本にあり、最近では竹田城跡の補修を行ったりしている。又、新名神高速道路の一部にも穴太積が使用されている。



坂本の町にはあちこちに穴太積の石垣を見る事ができます。

【滋賀院門跡】

1615 年に江戸幕府に仕え「黒衣の宰相」とも称された天台宗の慈眼大師天海が、後陽成天皇から京都にあった法勝寺を下賜されてこの地に移し建立した天台宗の寺で、1655 年に後水尾天皇から滋賀院の名を下賜され、江戸時代末まで天台座主となった皇族代々の居所であったため高い格式を誇り、滋賀院門跡と呼ばれます。坂本の町には、穴太積の石垣が数多く残っていますが、滋賀院門跡はひときわ背の高い石垣と白壁に囲まれて堂々とした外構えを見せています。

広大な境内は、内仏殿・宸殿・書院・庫裏・土蔵などが立ち並ぶ。書院には、江戸時代初めの狩野派の障壁画がたくさん見られ、豪華な雰囲気に溢れています。また小堀遠州の作と言われる庭園は、宸殿の縁側から眺めることができます。滋賀院にはこのほか、ヒムロスギやアカマツなどの植木だけからなる「蹴鞠の庭」と呼ばれる庭園もあります。

滋賀院の由来などお話を伺いました

滋賀院勅使門。左右には穴太積の石垣が続きます。

不滅の法灯

ここ滋賀院には最澄による創建以来 1200 年以上に亘って消える事なく灯し続けられた「不滅の法灯」があります。実際には1571 年の織田信長による比叡山焼討ちの際には灯りは一旦消えたのですが、山形県の立石寺（山寺）に分灯りされていた法灯を移し現在に至っているとの事。
イグサの芯をよって作った灯芯を油に浸して灯りをともしており、油が途切れると灯りが消えてしまう事より油を絶やさない様に皆が注意をして灯りを消さない様にしている。油を断たない様に皆で気をつける、これが「油断大敵」の語源とも言われている。

天台座主が乗る天上輿、現在も使用されるとの事。

天海が使用したと言われる具足

慈眼堂

【慈眼堂】

慈眼大師天海の廟所で、境内には歴代天台座主の墓の他後陽成天皇、後水尾天皇、徳川家康、清少納言、紫式部、新田義貞の供養塔があります。慈眼大師天海はこの時代にしては驚異的に 100 歳を超えて生きたと云われており、その出自ははっきりとしない事も多く足利将軍の御落胤説や、山崎の合戦で敗れた明智光秀が実は姿を変えて生き残ったと云う説もある。尚、ガイドさんによれば慈眼堂付近は坂本随一の紅葉の見どころとの事、また紅葉の季節に訪れられてはいかがでしょうか。

【明智光秀】

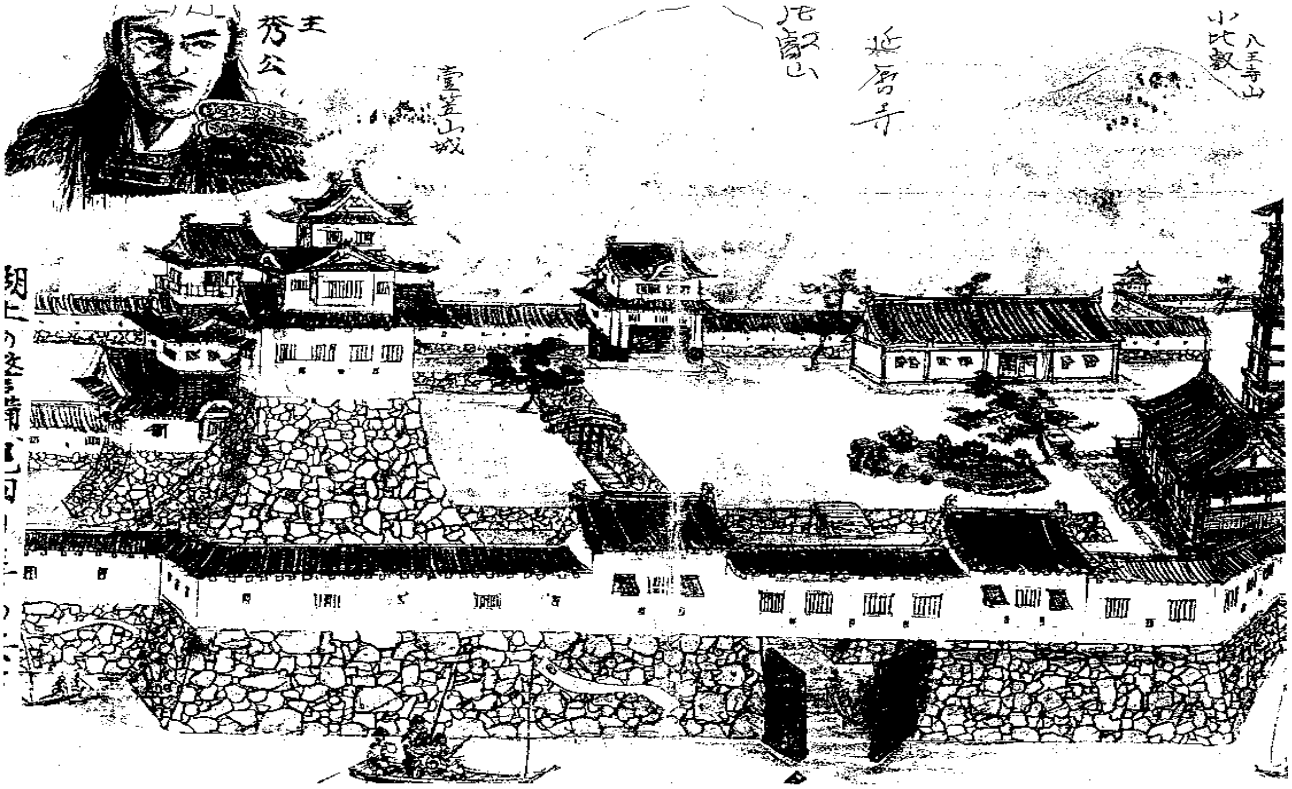
清和源氏の摂津源氏系で、美濃源氏土岐氏の支流である明智氏の家系。通称は十兵衛。後に朝廷より惟任の姓を賜ったため惟任光秀とも言う。娘の珠（たま）は細川忠興に嫁いだ。洗礼名をガラシャといい、細川ガラシャと云う名で有名。

光秀は越前朝倉氏に仕えていたとされる時期に、後の足利 15 代将軍義昭が越前の朝倉義景を頼った事より係わりを持つことになった。朝倉義景は義昭の上洛の期待に反して動かず、このため義昭は当時尾張から美濃に勢力を伸ばした織田信長に上洛を要請する事にしたが、この時に義昭と信長の間を取り持ったのが明智光秀だとされている。その後光秀は足利義昭、織田信長の 2 人に仕える事となるが、義昭が信長に反旗を翻した為、義昭とは袂を別けた(1573 年)。

1571 年の比叡山焼討ちの後、坂本に城を築いた光秀は、一向一揆との戦い、石山本願寺攻め、紀州の雑賀攻め、丹波攻め等に従軍、1579 年に丹波を平定し、この功績により丹波一国が加増された。1582 年 6 月に「本能寺の変」を起こすも、山崎の合戦で羽柴秀吉に敗れ、小栗栖付近で百姓らに襲われ死去したとされている。
明智光秀が「本能寺の変」をおこした理由はドラマ等では信長への怨みというのが多いが、朝廷黒幕説、足利義昭黒幕説など様々な説があります。

坂本城址公園に立つ明智光秀像

【坂本城跡】
坂本城は琵琶湖の南西側にあったとされ、ここは西側に比叡山があり、東側は琵琶湖に面していることから天然の要害を備えた地であった。1571 年の信長による比叡山焼き討ちの後、明智光秀に近江国滋賀郡が与えられ、京と比叡山の抑えとして築城された。
琵琶湖の水を引き入れた水城で、イエズス会の宣教師として来日していたルイス・フロイスは「明智の築いた城は、豪壮華麗で信長の安土城に次ぐ城である」と言っていたようです。その後明智光秀は坂本城を拠点に近江国の平定をし、坂本城は近江国における反織田信長勢力に対する重要な軍事施設として使用された。明智光秀が丹波国をほぼ手中に収め亀山城の城主となった後も坂本城の城主でもあったようである。


坂本城の想像図

1582 年 6 月 2 日、明智光秀は本能寺の変で織田信長、織田信忠を討ったものの、6 月 13 日に山崎の戦いで羽柴秀吉に敗れた。明智光秀は一旦勝竜寺城に退き、その後坂本城を目指している途中、山城国の小栗栖周辺で百姓らに襲われ死去したと伝えられる。坂本城は羽柴秀吉軍に包囲され、明智秀満（明智光秀の娘婿、或いは従兄弟との説がある）が天守に火を放ち落城した。

後に羽柴秀吉が丹羽長秀に再建を命じ城主となった。その後は賤ヶ岳の戦いの軍事上の基地として使用され、後に杉原家次そして浅野長政が城主となり、この時代に城下町が形成されたとされている。
現在城郭の大半は宅地化され、城があったと推定される地の中央には国道 161 号が通っている。琵琶湖の渇水時には国道 161 号線に面したキーエンス社の施設の沖付近に湖中に残る坂本城の石垣を見る事が出来るそうです。

【明智塚】
ここは明智光秀が築いた坂本城の城内と推定されるところで、由来については、いろいろな伝承が残っています。明智光秀が坂本城築城に際して、本家の美濃守護土岐氏から伝領した宝刀を城の主柱の下に埋めた跡であるとか、光秀秘蔵の愛刀「郷義弘」（ごうのよしひろ）の脇差を落城に際して明智秀満が埋めたところである、或いは又、秀満の首を埋めた場所とか、明智一族の墓所であるとか、いろいろな説があります。
この塚は明智一族の悲運もあってか、さわるとたたりがあると言われ壊されることもなく現在に至っています。

明智塚

【酒井神社/両社神社】
京阪電車松ノ馬場駅から湖西道路を越えて琵琶湖へ向かうと北国海道に当たる交差点は、両社の辻と呼ばれています。この辻の西側の北に酒井神社、南に両社神社があります。酒井神社の御祭神は大山咋神（おおやまくいのかみ）、両社神社は伊弉諾尊（いざなぎのみこと）、伊弉冉尊（いざなみのみこと）の二柱が祀られています。酒井神社は、創建は 810 年、下阪本にある梵音堂（ぼんのどう）にある石から酒が涌きだし、その酒の精は大山咋神であったので、

人々は社を建てて大きな石を御神体として祀ったのがはじまりでした。

810 年に酒の泉が噴出したとされる場所

両社神社

両社神社は、元仁年間（1224～1225）高穴穂神社の御祭神を酒井神社の境内に勧請したことに始まります。酒井神社、両社神社ともに織田信長の比叡山焼き討ちによって焼失しましたが、1575 年に再建されました。現在の本殿は、1620 年に広島藩主、浅野長政の次男浅野長晟（ながあきら）によって建立されました。

坂本城址公園、明智光秀像の前にて